

## 平成30年度 学校評価の結果と分析及び課題

### I 調査の概要

	生徒	生徒(授業評価)	保護者	教職員
回答者数	675	675	670	60
回答率	99.6%	99.6%	98.8%	100%
調査日	H30.11.30	H30.11.30	H30.11.14~21	H30.11.19~22

### II 本年度の重点目標

1. 確かな学力と主体的に考え行動できる力の育成
  - (1) 基礎学力の定着と学習意欲の向上への取組
  - (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

「わかりやすい授業」について、教員側の考え方と生徒の受け取り方に多少の開きがあり、生徒の実態に即した見直しが必要と考えられる。また、本校の生徒は定期テストや検定の直前になって勉強に取り組む傾向が強く、学習時間が少ない。学力が向上したと回答している生徒が多い反面、進路決定に際し、自信が持てないと感じる生徒が多いのはここに一因があると考えられる。学習の習慣化に向け、しっかりとサポートしていきたい。また、思考力・判断力を養うために読書習慣の確立も大切だと考える。まずはどのようにして図書館に足を向けさせるかを考えていきたい。

2. ルール・マナーを守る態度と自己指導能力の育成
  - (1) あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、時間厳守の指導の徹底
  - (2) 交通ルールの遵守と交通安全指導の徹底
  - (3) 個性の伸長と社会的自立を目指した社会性の育成

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

あいさつや頭髪服装については、多くの生徒ができているが、一部の生徒への指導が行き届いていない。今後、指導の徹底を図っていく必要がある。生徒の交通違反に対する意識は、まだ不十分である。生徒は守っていると思っているが、まだまだ守られていないことが多く、交通事故につながっている。更に交通ルールの指導の機会を増やし、交通事故防止に努めていく。いじめや不登校については、生徒の些細な変化を見逃さず、生徒の悩みを聞く機会を増やし、早期対応・解決に努める。また、教職員全員の共通認識と保護者との連携を密にすることが今後さらに必要となる。

3. 自己の在り方生き方を考えるキャリア教育の実践
  - (1) 年間を通した体系的なキャリア教育の実践
  - (2) 専門性の深化と進路意識・目的意識の向上
  - (3) 検定や資格取得による自己肯定感の向上

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

就職においては早い段階で内定するといった実績を収めている。進学においても、早い段階で希望する学校種・学校・学部学科が決定し、受験に向かうことができた。しかし、中には就職・進学、希望する企業・職種・学校等を決めきれない生徒も若干いた。就職は生徒の売り手市場となり、継続して就職していた地元企業の求人が残ってしまった。会社見学などの見直しも含めて検討が必要である。公募制推薦やAO入試で倍率の高い学校を受験する生徒には、進路選択の視野を広げる指導や、実力を知るための模擬試験の受験を積極的に進める指導が必要である。生徒の実情に合った進路行事の精選・見直しや、学科の取り組みも含め、3年間を見通したキャリア教育年間計画をさらに有意義なものにしていきたい。

4. 保護者や地域の信頼に応える学校づくりと特別活動の活性化
  - (1) 地域連携事業等による保護者や地域の信頼に応える学校づくり
  - (2) 逞しい心と体、豊かな人間性の涵養

#### 【アンケート結果の分析及び課題】

地域連携による体験活動、交流学习の活性化については、生徒と保護者・教職員との間にかんがいの意識格差があり、生徒はまだだと考えている。この格差の是正に取り組むことが、活性化し続ける学校、保護者や地域の信頼に応える学校づくりに繋がると考える。家庭学習の時間が確保できていないことの要因に、学校行事や部活動との両立ができていないことが含まれる可能性が否めない。メリハリをつけた活動や内容の精選、時間の有効活用等について生徒への自覚を促す必要がある。松桜高校フェスタは地域と連携した有意義な行事であり、4学科の魅力を地域に十分に発信できるように、実施方法・形式の再検討が必要である。